



奥富喜一

2018年6月市議会（6月5日～6月22日）の概要を報告します。日本共産党福生市議団は、格差と貧困を広げる安倍政権の悪政の下で、福生市政が防波堤となって市民を守るべきとの基本姿勢で取り組みました。一般質問の詳しい内容については、福生市のホームページを開き、福生市議会→インターネット中継とクリックしてご覧ください。



池田公三

6月市議会  
一般質問

玉川上水・分水網の保全・再生を

玉川上水、熊川分水の保全・再生については、関係市民団体との連携が大切との立場から質問しました。市長からは、4つの市民団体の活動が紹介され、連携を進めていることが分かりました。

熊川分水については、「福生市まちづくり景観条例」で定める「景観資源」第1号に指定し、後世に伝えていくとの回答がありました。

玉川上水・分水網を将来にわたって永く保全活用していくために、「日本遺産・世界遺産」認定を目指すことについて、市の見解を求めました。市は、東京都各局、4区9市、市民団体で構成される「玉川上水緑の保全事業 都・区市連絡協議会」を通して取り組んでいくとしました。

多摩川中央公園に新設のバーベキューの改善を

多摩川中央公園の旧バーベキュー場を廃止し、多摩橋寄りに新しく設置されました。駐車場に近く、水の便も良いなど利点もたくさんありますが、木陰がなく、熱射病なども心配されるため、その対策を求めました。市は、この施設が防衛省の補助を受けて設置されているため、設計審査の段階で入っていなかった、製品に対する加工は難しいとの考えを示しました。しかし、河川区域という特殊性も踏まえ、他事例などの情報収集に努めたいとしました。

私は、設置されている野外卓の中央にパラソルをさす穴をあけること、テントが強風で飛ばないように、固定用のボルトを埋め込むこと、風と熱射病対策のアイデアを市民から募集することを要望しました。



新バーベキュー場

横田基地について

オスプレイの今夏、横田基地配備等について

4月3日（火）、スケジュールを変更し、今年の夏頃に5機のCV-22オスプレイを横田飛行場に配備すると突然発表。夏頃とは具体的に何時か問いましたが、それ以上の説明は受けていないとのことでした。昨年8月5日にオーストラリア東海岸沖で発生したMV-22オスプレイの事故は、またまた、オスプレイ自体の吹き下ろし（ダウンウォッシュ）であることを確認しました。4月5日飛来したCV-22オスプレイは、ダウンウォッシュが起こる危険性の高い編隊飛行を、5機で福生市上空で行いました。その報道映像でも2機目がゆらゆらしていた事実を紹介。離発着時の危険と、編隊飛行訓練の危険を、配備後は常に繰り返すことで、危険を呼び込むことを指摘。このほかCV-22オスプレイは嘉手納飛行場の第353特殊作戦群に所属することを確認しました。奄美空港の緊急着陸については、明確な答えはありませんでした。

横田基地の特殊作戦基地化は危険

新C-130J-30は特殊作戦任務も併せ持つこと。パラシュート降下訓練も特殊作戦を遂行するための訓練であること。米本土や沖縄の陸軍特殊部隊が横田基地に来て一回に数十名規模の訓練を繰り返していること。CV-22オスプレイは、2011年、Delta Force CIA特殊部隊によるオサマ・ビン・ラディン発見・捕獲・殺害の部隊であること。特殊で最先鋭な部隊を運び、作戦に直接参加することで、世界的なテロリストの標的になる可能性を呼び込むこと。2012年1月10日のサムライサージ訓練で、パラシュート降下訓練が100名規模で大々的に行われた頃に前後して、飛来輸送機の大型化や特殊作戦機の増加が顕著なこと。

明らかな基地機能の変容、強化であり、福生市民の安全・安心に対する脅威であることを述べ、外務省・防衛省は市長にどう説明し、市長はどう受け止めているか問いましたが、国からは「詳細を把握していない」との回答のみと答え、引き続き粘り強く基地問題の解決に向けて取り組むと答えました。



F-22A ラプターステルス戦闘機

公共施設の20%削減は福生市の良さを消す恐れ

福生市は、公共施設等総合管理計画の中で、市民一人当たりの公共施設延べ床面積を東京26市の平均水準まで20%削減するという方針を発表しました。しかし、福生市の歴代の市長は、市民の自主的な学習活動、文化活動、スポーツ活動を推進する立場から、中学校区ごとに公民館、図書館、体育館を、小学校区ごとに地域集会施設を整備してきました。このことが200近い公民館サークルなど市民の活発な活動につながり、生き生きとしたまちづくりに役立ってきました。せっかく市民と行政で育ててきた福生市の良さを、20%削減で、平均的な福生市に引き下げてしまっていないのでしょうか。それは、「教育立市（学校教育＆社会教育）」「健康寿命」を重視する現市政の方針とも矛盾します。いかにして、福生市の良さを維持していくかの検討・努力こそが今、求められています。「20%削減」が先行するのは危険です。

学校給食の改善めざし、アンケートの実施を

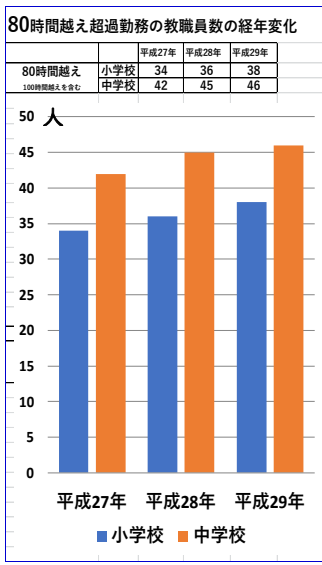
福生市でも、昨年9月から、中学校を含む学校給食が防災食育センターを使って実施されています。毎議会ごとに中学校給食の実施を要望してきた私としては大変嬉しく思います。現段階での実施状況を質問しました。配達遅延もなく、喫食時間、授業に支障をきたすことなどもないとの回答で、一安心しました。しかし、子どもや保護者からの不満の声も、時々耳にします。市教委もいろいろな機会に関係者の声を聴取していると思いますが、適切な時期に、子どもと保護者全員を対象にアンケート調査し、一層の改善につなげることを要望しました。



防災食育センター

先生方の過労死ライン超えに対策を

福生市の先生方が過去3年間、過労死ライン（一月平均80時間時間以上の超過勤務）を超えて残業（しかも、教員は7時間分程度の残業手当しか出ていません。今国会で安倍政権が強行しようとしている残業代ゼロ法案の先取りとも言えます。）をしている人数を質問しました。その結果、ひと月当たりの超過勤務時間が80時間を超えたことが1度以上ある人数が、平成29年度で、小学校で38人、23%、中学校で46人、56%にも達していることが分かりました。しかも、年々増加傾向であることが分かりました。



こうした状況を改善するために、私がかねてから要望していた「福生市立学校等職員労働安全衛生規定（仮称）」の検討状況を質問しました。今年の秋までに整備され、実施されることが分かりました。メンタルヘルスチェックの実施や産業医の配置なども行われ、先生方の過酷な働き方が改善されることが期待されます。子どもたちのためにも、朗報です。また、西多摩では初めてのことであり、内容的にもお手本になるような規定に仕上げ、運用でも実効性のあるものになるよう、引き続き見守っていきたいと思います。同時に、こうした長時間労働の根本的な解決のためには、国が、欧米並みの少人数学級と教職員定数の大幅増を決断し、そのための予算措置をとることが求められています。



6月市議会では、報告3件、議案12件、陳情1件が審議されました。日本共産党は安倍政治の悪政から福生市民の安全と暮らしを守る福生市政になるよう意見を述べ、態度を表明しました。

	主な議案や陳情	議案・陳情に対する各会派の態度					備考
		共産党	正和会	公明党	生活ネ	市民派	
議案31号	福生市税賦課徴収条例等の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	地方税法の一部改正に伴う改正
議案32号	福生市都市計画税条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	地方税法の一部改正に伴う改正
議案33号	福生市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	×	○	○	○	○	下記記事を参照
議案34号	福生市学童クラブの設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	学童クラブ支援員の資格要件の拡充
議案35号	平成30年度福生市一般会計補正予算(第1号)	○	○	○	○	○	
議案36号	福祉センター設備改良工事(機械設備)請負契約	○	○	○	○	○	空調設備改良など
陳情30-2	学校給食費の無償化を求める陳情書	○	△	△	○	○	下記記事を参照

態度表明欄の ○は賛成・採択、×は反対・不採択、△は継続審査の意味

福生市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

反対討論 奥富

保育の質を引き下げる恐れ。認可保育園の増設を基本に!

保育は、子どもの健やかな成長、そして、親の働く権利を保障するものでなくてはなりません。それを保障するのが国の責任です。また、保育は人権保障の施策です。ですから、待機児童の解消も、詰め込みではなく、認可保育園の増設を基本とし、正規の保育士が配置され、子どもの安全と健やかな成長が確保できる体制が守らなければなりません。

この自覚がなければ、現在の保育士の劣悪な待遇をわずかな調整で済ませようとしてしまいます。「待機児」が社会問題になれば、とにかく詰め込めばいい、保育の質の低下は仕方ない、という発想になります。ですから、「少子化対策」「女性の活躍」と言いながら、保育園も満足に整備しようとしないう安倍政権の施策に、子を持つ親の切実な要求と怒りが強く向けられているわけです。

さて、福生市では、2016年にも、今回と同一名称の条例の一部改正が行われました。保育士免許がなくても「保育士とみなすことができる」とする規制緩和で、看護師、幼稚園教諭、その他の者で「認定研修」を終了し、市町村長が家庭的保育者として適当と認める者などとするものでした。保育の質の低下を招かないで、子育てできることが大切との立場から、私たちは反対いたしました。

今回の一部改正は、家庭的保育事業等の職員が病気などの理由による代替保育の規定や、食事の外部委託について、さらに規制緩和を拡大するというものです。福生市では、今回の一部改正で、該当する事業者は無いとしていますが、国が基準を引き下げたからそれに従うでは、親は安心して働きません。

福生市では、「子育てするならふっさ」の施策のもと、大変なご努力で、延長保育の面や待機児童問題では、現在はなんとか対応できているとしています。しかし、認可外保育園を含めてであり、



必ずしも質が担保されているとの保証は残念ながらありません。国の基準に従って、保育の質を引き下げることになる条例改正には反対であることを表明します。

学校給食費の無償化を求める陳情書

総務文教委で賛成討論 池田

未来を担うふっさっ子を、学校給食費無償化で力強くサポートを

本陳情は総務文教委員会に付託され、審議しました。

最初に清水議員(正和会)が、陳情書にある、給食費が保護者負担の中で重い負担になっているとしていることについて調査したいので継続審査としたい旨、発言しました。

続いて私(共産党)が発言し、給食費が保護者負担全体の中でどのくらいの割合になっているか、理事者側に質問しました。小学校中学年で4万6千円、91.19%、中学校で5万600円、84.5%と回答がありました。陳情書にある通り、給食費が重い負担になっていることは明らかであり、どの子ども安心して教育を受けられるよう、本陳情の採択を求めました。

原田議員(公明党)は、国や都からの補助金がなければ、市単費での学校給食費無償化はできないとして不採択の考えを示しましたが、構成メンバーを見て、消極的だが継続審査との態度を表明しました。

三原議員(生活者ネット)は、子どもの貧困が深刻で、就学援助では漏れが出る。本当に困っている子どものために採択をと述べました。

採決の結果、継続審査となりました。本会議では採択に賛成が4人でした。

昨年10月より、市民の念願だった中学校給食及びアレルギー対応給食が実施され、保護者も子どもたちも大変喜んでおります。学校給食を通して味覚を育て、みんなで給食を囲むの和やかな雰囲気の中で、体も心もすくすくと育っていくことでしょう。

子どもの貧困が叫ばれて久しくなります。福生市でも市民による「こども食堂」が行われるようになりました。消費税をはじめとした様々な値上げが予定されている中で、家計に占める教育費の負担が大きくなっています。とりわけ給食費は、保護者の義務教育費の中で大変大きな負担となっています。

学校給食費の無償化は、①子育て世代への力強い応援策となり、②どの子ども安心して学習やスポーツに打ち込むことができ、③人口流出を抑え、他地区からの人口流入も期待されます。これは、市の方針である「子育てするならふっさ」にも合致します。

未来を担うふっさっ子を市が力強くサポートしてください。福生市が学校給食費無償化に足を踏み出してくださいを強く要請します。

【陳情事項】 学校給食費の無償化を実現してください。

平成30年4月23日 陳情者 新日本婦人の会福生支部 代表者 ㊞